登り町グリーン通り商店街「ファサード整備に基づくエコロジカルタウンづくり」

１．取り組みの概要

○　登り町グリーン通り商店街振興組合（彦根市）では、平成 12 年度のファサード整備事業実施（同地域の老朽アーケードの撤去）をきっかけに、植栽や美化活動など「人と環境にやさしい商店街づくり」を取り組んでいる。 ○　商店街はマリア・テレジア・イエロー基調に欧風調の建物で統一感を醸し出し、各店舗 2 階には季節の花々を飾り付けるガーデニングが設置され彩りを魅せている。

２．商店街概要

商店街名	登り町グリーン通り商店街
所在地	滋賀県彦根市中央町
組合数	34
ＵＲＬ	http://www.biwako.ne.jp/~green/

３．取り組みに至る経緯・背景

✓　登り町グリーン通り商店街の周辺地域には、銀座町交差点を起点にしてみると、同商店街のほか、銀座商店街、花しょうぶ通り商店街、リバーサイド橋本通りの各商店街が寄り添う形で形成している。

［図］　彦根市登り町グリーン通り商店街の周辺図

- ✓ 登り町グリーン通り商店街は彦根城の城下町（江戸時代の幟（のぼり）を担当する武士が居住地）に当たり、商店街としては歴史的に古く、組織的な活動（任意組織活動）か行われ始めたのは昭和 24 年以降となっている。
- ✓ 特に、昭和 37 年のアーケード建設を機に、商店街の原型が形成される。
- ✓ そのアーケードの老朽化が顕著になった平成 10 年を機に、滋賀県立大学環境科学部柴田研究室（柴田教授と研究生ら）が社会調査の一環で、小椋前理事長や宮川副理事長（現理事長）らやる気ある商店主らとのコラボで、新たな商店街づくりの企画を練る機会が生まれ、商店街ではアーケード撤去（平成 10 年 11 月に登り町商店街総会で決議）とともに新しい景観整備（ファサード整備事業の採り入れ）を目指すこととなる。
- ✓ また、ファサード整備事業で採り入れることとなる、マリア・テレジア・イエロー基調に欧風調の建物などは、同事業の発起人である小椋前理事長が欧風建築物好きであることが色濃く出ている。
- ✓ アーケード撤去やその後の景観整備に向けて、同年 6 月に商店街振興組合を設立することとなる。
- ✓ 商店街の名称はケナフを通りに配置するなど『環境』にこだわった街づくりを主旨とした、「登り町<u>グリーン通り</u>商店街」としている。
- ✓ 同事業は、中心市街地活性化法の適用を受け、彦根市の中小小売商業高度化事業構想（TMO 構想）の中で「ファサード整備事業」として平成 12 年度以降に取り組むことが位置づけられ 14 年春に完成している。
- ✓ なお、ファサード整備事業は、滋賀県の 11 年度中小商業活性化助成金を活用した、「共同化事業基本構想策定事業」の一環でまとめられたものである。

４．取り組み内容

（１）取り組みの実態

- ✓ ファサード整備事業では、街並み（外観）整備のほか、ラッキーチケット付き空き缶・ペットボトル回収機の設置などの「①リサイクル事業」（10 年 11 月～15 年末）や、「②ケナフ栽培事業」（11 年 5 月～15 年末）、「③緑化整備（プランターボックス設置）事業」、空き店舗対策で行った「④エコ商品陳列事業」（10 年 11 月～15 年末）を行っている。
- ✓ 上記事業のほか、女性店主やおかみさんの集いで平成 14 年春から現在まで続いている『登り町グリーンレディース』（渡邊僖子代表、メンバー13 名）では、「⑤店先カルチャー教室」（年 4 回程度）を各店舗の店先などで開催し地域の消費者とのコミュニティ活動を行っている。
- ✓ 主に、「寄せ植え」や「フラワーアレンジメント」など各店舗のおかみさんの得意とする分野をメニュー化している。

（２）事業運営上の問題点とその対応

①リサイクル事業

- ✓ ラッキーチケット付き空き缶・ペットボトル回収機の導入により、空き缶やペットボトルを持ち寄ってきたお客様に対して賞名と賞品が当たる仕組みを採り入れたが、賞品等のスポンサー維持を見出すことができず、平成 15 年末で終息に至る。
- ✓ 消費者とスポンサー双方のメリット感を見出すことができなかったことが要因とされている。

②ケナフ栽培事業

- ✓ ケナフ栽培は 11 年 5 月から始まり、ケナフは二酸化炭素吸収作用に優れ、良質な紙の原料になるとのことで約 500 株を植樹している。平成 11 年度には（株）平和堂と共同で紙を産み出してきたが、ケナフそのものが 3 年内で駄目になってしまい、その後は存続に至っていない。
- ✓ ファサード整備事業当初に比べ、各店主の年齢も増し、商店街全体に高齢化が押し寄せていることから、当時のやる気を見出すことができないでいる。また 2 代目の若い世代が 1 名足らずと、若年パワーが損なわれていることも一因である。

③緑化整備事業

- ✓ 各店舗に、軒先や 2 階ベランダ部分にプランターボックスを設置し、年に 2 回の植栽入れ替えを行っている。
- ✓ なお、プランターボックスの重さを懸念して、現在（平成 22 年時点）は 2 階ベランダ部分の建造物に対する耐久性調査を採り入れていることから、各店舗の軒先での設置にとどまっている。

［写真］　各店舗のプランターボックス設置（全景）

④エコ商品陳列事業

✓　空き店舗対策の一環として、リサイクル事業と同時期に、エコ商品の陳列販売や各店舗内でのエコ商品取り扱いを行ってきたが、各店舗の商いの隅に追いやられるなど、各店主が存在価値を見出せずに 3 年内に終息している。

⑤グリーンレディース活動

✓　登り町グリーレディース（渡邊僖子代表、渡邊薬局店主）は、メンバーである各店舗の女性店主やおかみさんがその道の分野の講師となって、来街するお客様相手にカルチャー教室を展開しているが、講師役に立つ店主やおかみさんにとっては持ち回りの面倒さとともにマンネリ感が年の経過に合わせて見え隠れしてきている。

✓　一方で、21 年度「彦根市男女共同参画推進事業者」表彰を受けるなど、同事業のやりがい感や、メンバーのモチベーションアップに寄与している。

［写真］　登り町グリーレディース活動紹介記事

近江同盟

第16041号

登り町商店街「グリーンレディース」頑張る

店先カルチャー教室8年継続

彦根市表彰受け活動に弾み

フラワーショップ「花廣」で開かれた男女参画表彰後初のカルチャー教室（21日）

男女参画推

2事業所表

（出典）近江同盟新聞より

（３）事業継続のポイント

緑化整備事業について

✓　毎年、彦根市単独事業である「フレッシュアップ事業」（1/3 補助）を受け、プランター維持費に充てている。

登り町グリーレディース活動について

✓　店舗の大半は夫婦共同経営であり、主に夫人が店舗内の切り盛りを行っている傾向にあることが、「店先カルチャー教室」開催の土壌にあり、存続維持の源となっている。

５．地域とのつながり

✓　ファサード整備事業を強く後押しした推進者（発起人）は、同組合の前理事長（初代

理事長、小掠政昭氏）である。

- ✓ ファサード整備事業に至るまでの検討委員会（共同化事業基本構想策定委員会）では、11 名の商店主が委員として参加し、専門家委員の織田直文先生（滋賀文化短期大学教授、中心市街地活性化タウンマネージャー）を交えた形で取り組まれている。

［表］ 共同化事業基本構想策定委員会の主なメンバー

役職	事業所名	氏名
専門家委員	滋賀文化短期大学	織田直文
専門家委員	一級建築士事務所 計画工房	戸所岩雄
委員長	政所園	小掠政昭（理事長）
副委員長	伊勢幾	宮川基司（現・理事長）
副委員長	中村松寿堂	中村泰始
委員	渡邊薬局	渡邊僖子 （グリーンレディース代表） ほか、7 名

※「平成 11 年度中小商業活性化事業　共同化事業基本構想策定事業報告書」より作成

- ✓ また、滋賀県立大学環境科学部柴田研究室（柴田教授とその研究生）の出会いが事業化のきっかけとなっている。

６．取り組みによる成果

- ✓ 組合設立前は、各商店主は隣近所づきあい感覚であったが、ファサード整備事業の導入（組合設立を機に）を通じて、商店主同士のまとまり感が今まで以上に産み出される。
- ✓ 組合設立後は、組合員の考え、気持ちがファサード整備事業による街づくりといったひとつのベクトル（目標）に向かうこととなり、緑化整備事業などのソフト事業の取組意識の高まりとともに、組合員間のお互いのコミュニケーション、連携が深まり、組合組織強化が図られてきている。

７．今後の課題・展望

- ✓ 今日に至っては、組合員の高齢化に伴い、ファサード整備事業導入時のような「若さ」と「やる気」が消沈してきており、若手の後継者不足であるため同事業継承がうまくいっていない。
- ✓ また、近隣商店街（花しょうぶ通り商店街の一部を除く）でも同様の閉塞感が漂って

いることから、お互いの商店街の特長等は尊重しつつも、同地域に隣接し合う商店街であるだけに、4 商店街がひとつのベクトル（次代の目標）に向かって協調を図っていく必要がある。

- ✓ ただし、各商店街の中ではその改善への灯が点きにくいことから、外部からの刺激策、改善きっかけを求める空気がある。